

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第127号

平成28年6月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

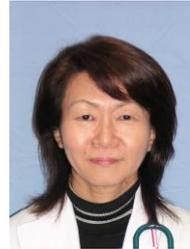
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

夜尿症について

小児科主任部長 安藤 郁子



「おねしょ」は、夜寝ている間におもらしをする場合をいい、排尿に関わるメカニズムが未熟なためと言われています。5歳過ぎて週2回以上、3か月以上続くおねしょは「夜尿症」といい、小学生になっても月に数回続く場合は治療が必要な疾患として扱います。昼間のおもらしが併存する場合、トイレトレーニング終了後無くなっていた夜尿が再度出現した場合は早めに専門医受診が必要と考えますが、大多数はおむつが取れて以降も続く夜のみのおもらしで、そのうち治ると様子を見るケースも多いと思います。しかし夜尿症の治癒率は1年あたり10～15%と言われ、半分は高学年になっても残ります。5～6年生は学校の行事で宿泊もあり、慌てて早く治したいと外来受診されるケースが多いですが、子供の自尊心の低下や家族の精神的経済的負担を考えると早めの治療開始をお勧めします。治癒率は1年で50%、2年で70%、3年で80%と経過観察した場合と比べると有意に早く治るといわれています。具体的な治療は、まずは生活指導、親は怒らない・起こさない・焦らないを心がけ、水分摂取は昼食まではたっぷり摂取し、夕方からは制限します。夕食から就寝までは2～3時間はあけて、寝る前3時間は水分を極力ひかえることと、寝る前にしっかり排尿させる事が大切です。尿意がはっきりしない程度だとおざなりになりやすいので、親が付き添って完全に排尿するよう見てあげてください。便秘も治りにくい原因となりますので排便習慣もつけるよう指導します。2～4週間続けて効果なければ投薬治療やアラーム療法などを選択します。夜尿症に用いられる薬剤としてはデスマプレチン・抗コリン剤・三環系抗うつ剤などがありますが現在の主流はデスマプレチンです。詳細は、外来小児科2013：16（3）346-349、「夜尿症の初期診療フロー」参照されるとよいと思います。

一方、治療になかなか反応しない難治性の夜尿症のお子さんには発達に問題のあるお子さんが多いといわれています。特に睡眠障害を伴いやすい自閉症スペクトラムや、注意欠如／多動症（ADHD）のお子さんは夜尿症を併存している率が高く、薬物治療で行動面や睡眠の改善などがあるケースは夜尿症も治ってしまうことを経験します。難治性の夜尿には発達障害が背景にある可能性もあり、そのようなケースがありましたらご紹介ください。

高齢者がん患者に対する治療選択のための治療前評価の必要性

泌尿器科副部長 飛梅 基



日本は、平均余命、高齢者数、高齢化のスピードの3点において、「世界一」の高齢化社会といえる状況である。将来人口推計でみると、「75歳以上人口」は2020年には15.1%、2030年には19.3%、すなわちおよそ5人に1人は75歳以上になると推計されている。

一般に、高齢のがん患者では、加齢に伴う生理的变化に加えて、併存疾患による内服薬の増加、認知機能低下などの精神心理的な問題、家族形態や経済的困窮などといった社会的問題などが存在する。そのため、各患者の多様性に応じて提供しうる治療の個別化を考慮することになる。すなわち高齢であっても、全身状態が良好であれば、非高齢者で確立している標準的治療を行うこともあるが、全身状態が良好な高齢者全例に導入できるかどうかは、リスク評価や治療法の強度、さらにはがんの種類によって異なると考えられる。日本人死因の第一位はがんであるが、高齢になるとやはり併存症も多くなり、がん以外の死因が相対的に増えてくる。各患者の多様な背景を正確に把握することが確立されていない現状では、リスクを適切に評価して診療を組み立てる必要がある。

高齢者機能評価は、主に在宅高齢者やリハビリの分野、非腫瘍性疾患に対して検討されてきたため、腫瘍学の応用には十分ではなく重要な課題でもある。

米国の National Comprehensive Cancer Network (NCCN)ガイドラインによれば、高齢者の加齢に伴う精神、身体的変化は個人差が大きいため、がん治療が適切かどうかの判断は、余命の推定やリスクの評価が重要であるとしている。がん診療における Geriatric Assessment(GA)の有用性も報告されており、国際老年腫瘍学会ではGAの実施を推奨している。その理由として、1)未確認の問題およびリスクの発見、2)有害転帰の予測(有害事象、機能あるいは認知力の低下、術後合併症など)、3)余命予測およびがんによる死亡の予測の3つが挙げられている。比較的によく用いられるGAツールとしては、G8(表1)、vulnerable elderly survey-13(VES-13)、Flemish version of the Triage Risk Screening Tool(fTRST)などがあるが、確立された評価基準はなく、様々な方法で臨床研究がおこなわれているのが現状である。本邦においても、「今後のがん研究のあり方について」の報告書に基づいて、高齢者を対象とした臨床研究を進める機運が高まり、2014年3月に日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)により高齢者研究小委員会が設置され、現在JCOG試験共通のGAツールを選定する作業等が進められており、今後の活動に大きな期待が寄せられている。

多くのがん患者が高齢であることは知られているが、そのための研究および実地診療における取り組みは、最近になり行われる様になったばかりであり、解決すべき課題は山積みされている。がん診療は、従来の入院主体での対応から、外来診療、在宅対応へと地域を主体とした体制へ深化しつつあり、高齢者のがん診療に対しては、国民皆保険制度を基準に、がん診療における高齢者機能評価などを基に患者背景を考慮し、個別化された治療が重要であるとともに、地域ごとの工夫を柔軟に採用するなどして、医療システムを再検討する必要がある、家族を含めたコミュニティの支援体制を構築していくことも重要な課題であると考えられる。

表 1

| G8 Screening tool | | | |
|-------------------|--|--|----|
| | 質問項目 | 該当回答項目 | 点数 |
| A | 過去3か月間で食欲不振、消化器系の問題、そしゃく・嚥下困難などで食事が減少しましたか | 0：著しい食事量の減少 1：中等度の食事量の減少 2：食事量の減少なし | |
| B | 過去3ヶ月間で体重の減少はありましたか | 0：3kg以上の減少 1：わからない 2：1～3kgの減少 3：体重減少なし | |
| C | 自力で歩けますか | 0：寝たきりまたは車椅子を常時使用 1：ベッドや車いすを離れられるが、歩いて外出できない 2：自由に歩いて外出できる | |
| E | 神経・精神的問題の有無 | 0：高度の認知症または鬱状態 1：中程度の認知障害 2：精神的問題なし | |
| F | BMI値 | 0：19未満 1：19以上21未満 2：21以上23未満 3：23以上 | |
| H | 1日に4種類以上の処方薬を飲んでいませんか | 0：はい 1：いいえ | |
| P | 同年齢の人と比べて、自分の健康状態をどう思いますか | 0：良くない 0.5：わからない 1：同じ 2：良い | |
| | 年齢 | 0：86歳以上 1：80歳～85歳 2：80歳未満 | |
| 合計点数 (0～17) | | | |

本質問紙はG8原版をもととしMini Nutritional Assessment (MNA®) 日本語版より該当する項目を引用しています

表 2 部位別 10 年相対生存率

| 部位 | | I | II | III | IV | 全症例 | 手術症例 | 手術率(%) | 病期不明率(%) | 登録率(%) | グラフ表示 |
|---------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|----------|--------|-----------------------|
| 食道 C15 | 症例数 | 312 | 335 | 402 | 269 | 1,440 | 598 | 41.5 | 91.5 | 99.2 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 64.1 | 36.9 | 15.4 | 4.8 | 29.7 | 35.8 | | | | |
| 胃 C16 | 症例数 | 3,706 | 519 | 661 | 1,128 | 6,413 | 4,726 | 73.7 | 93.8 | 99.3 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 95.1 | 62.7 | 38.9 | 7.5 | 69.0 | 73.6 | | | | |
| 結腸 C18 | 症例数 | 539 | 451 | 426 | 358 | 1,866 | 1,634 | 87.6 | 95.1 | 99.3 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 98.6 | 85.2 | 74.8 | 8.7 | 70.6 | 72.0 | | | | |
| 直腸 C19-20 | 症例数 | 365 | 319 | 328 | 196 | 1,249 | 1,139 | 91.2 | 96.7 | 99.4 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 94.1 | 83.3 | 63.0 | 6.0 | 68.5 | 68.2 | | | | |
| 大腸 C18-20 再掲1 | 症例数 | 904 | 770 | 754 | 554 | 3,115 | 2,773 | 89.0 | 95.7 | 99.3 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 96.8 | 84.4 | 69.6 | 8.0 | 69.8 | 70.4 | | | | |
| 肝 C22 | 症例数 | 388 | 498 | 426 | 285 | 1,700 | 463 | 27.2 | 93.9 | 98.9 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 29.3 | 16.9 | 9.8 | 2.5 | 15.3 | 29.8 | | | | |
| 胆嚢胆道 C23-24 | 症例数 | 85 | 88 | 66 | 183 | 562 | 313 | 55.7 | 75.1 | 98.9 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 53.6 | 20.6 | 8.6 | 2.9 | 19.7 | 32.2 | | | | |
| 肺 C25 | 症例数 | 57 | 99 | 126 | 513 | 895 | 394 | 37.3 | 88.8 | 99.7 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 29.6 | 11.2 | 3.1 | 0.9 | 4.9 | 11.1 | | | | |
| 喉頭 C32 | 症例数 | 166 | 114 | 59 | 58 | 451 | 169 | 37.5 | 88.0 | 98.7 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 93.9 | 63.0 | 53.0 | 54.1 | 71.9 | 66.3 | | | | |
| 気管、肺 C33-C34 | 症例数 | 2,117 | 521 | 1,688 | 1,559 | 6,100 | 2,954 | 48.4 | 96.5 | 98.9 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 69.3 | 31.4 | 16.1 | 3.7 | 33.2 | 57.8 | | | | |
| 乳 50 | 症例数 | 1,412 | 2,133 | 492 | 227 | 4,401 | 4,240 | 96.3 | 96.9 | 99.2 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 93.5 | 85.5 | 53.8 | 15.6 | 80.4 | 82.8 | | | | |
| 子宮頸 C53 | 症例数 | 579 | 216 | 177 | 100 | 1,116 | 785 | 70.3 | 96.1 | 98.4 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 91.3 | 63.7 | 50.0 | 16.5 | 73.6 | 84.2 | | | | |
| 子宮体 C54 | 症例数 | 500 | 53 | 121 | 29 | 743 | 713 | 96.0 | 94.6 | 98.9 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 94.4 | 84.2 | 55.6 | 14.4 | 83.1 | 85.8 | | | | |
| 卵巣 C56 | 症例数 | 134 | 43 | 118 | 57 | 372 | 328 | 88.2 | 94.6 | 99.1 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 84.6 | 63.2 | 25.2 | 19.5 | 51.7 | 56.8 | | | | |
| 前立腺 C61 | 症例数 | 71 | 503 | 306 | 329 | 1,306 | 511 | 39.1 | 92.6 | 99.0 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 93.0 | 100.0 | 95.6 | 37.8 | 84.4 | 100.0 | | | | |
| 腎・尿管 C64-66 | 症例数 | 269 | 88 | 86 | 175 | 650 | 532 | 81.8 | 95.1 | 99.8 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 91.3 | 76.4 | 51.8 | 13.8 | 62.8 | 73.0 | | | | |
| 膀胱 C67 | 症例数 | 258 | 103 | 60 | 46 | 503 | 473 | 94.0 | 92.8 | 98.7 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 81.4 | 78.9 | 32.3 | 15.6 | 70.3 | 72.1 | | | | |
| 甲状腺 C73 | 症例数 | 121 | 128 | 126 | 89 | 505 | 476 | 94.3 | 91.9 | 99.2 | グラフ表示 |
| | 生存率(%) | 100.0 | 100.0 | 94.2 | 52.8 | 90.9 | 93.6 | | | | |